



上の写真はとある昼休みの編集室の風景です。

「飛翔な日々」は、私たち飛翔編集 日、飛翔  
様の身近に感じてもらいたいという思いから生まれたコーナーです。  
飛翔はこんな感じの人たちによって作られています。  
よかったら た

雨男

平野 俊樹

自分は雨男だと痛感する と、る  
達に言うのと笑われるけど、真剣にそう思う。  
高校時代、いろいろなこと  
肝心な日にはかなりの確率で雨が降った。  
水泳の試合、修学旅行、その他諸々……。  
そのたびに雨男である自 のせ に、る  
でも正直、雨は  
最近雨が少し好きになってきた。肝心な日  
に雨が降るといことは、逆に言えば雨が  
降った日は大 日 は 降 た  
び せ

張ったこと。い い  
映って、胸の奥に染 いて  
たことも、ふと思いだしたりする。時には  
ぼんやりと。 は 。  
ちなみにこれを書いてる今日は小雨が  
じ。ふと思いだしたのは、なぜかテンショ  
ンが上がって傘もささずに友達と走り回っ  
てホテルの前で滑って転んだこと。今思

周りか 見  
出だけど、押入れの奥の宝 の  
くかぶったほこりをそつと払いながら取り  
出して、また大切に元の場所に戻して。そ  
んなふうにして些細な思い出をいつでも思  
い出せる。

る。とりあえず誇りに思うことにする。有名な曲にもあるし。『思い出は、いつの日も雨』って。

## 八方美人の素顔

中村 洋平

今号では編集長  
した中村です。

最近右足を捻挫しまして、引きずって歩いています。というわけで、左足  
闘してくれています。

人間は立っている時、無意識に体重をかける足  
いました

な、と言うのが正直な感想です。椅子を見つけると「どっこらしょ」と座り、それから左足君お疲れ様、と心の中で労っています。

編集長としての仕事はあまり動  
うなものではないので  
メンバー

「大人

白、て、て、

い」なんて言葉を聞きますが、今の私は何十本もの足に支えられて歩いていきます。なんとも照れくさい言葉で  
を思いました。そして、これからはそうやって歩いていくのだ  
い  
から、支えてくれた分だけ支えてあげたい  
と思うのです。

だから、私は好かれる人間でありたいな  
と思いま

中学校や高校時代の私は（自称）優等生  
でしたので、宿題をきちんとこなしており  
ました  
と白、て、

ということがよくありました。当時の私は  
それを嫌っておりました。自分で努力しな  
ければ意味がないからです。それは今でも  
同じです。

しかし裏返せば、それだけ自分に余裕が  
あることだと思えます。その余裕  
んなところに活かすことができるなら、そ  
んなに良いことはありません。

今の自分は「忙しい」と口癖のように言っ  
てしましますが、そのたびに心を亡くして  
いるなどと言ってしまったているわけです。  
忙しいからあれができない。忙しいからこ  
れも

の中においておきたくないのです。

皆に笑っていて欲しいなんて、

ただの偽善者の、

最大限の努力の果てなら、

笑えないから。

## 大学デイズ

〜アルパ時々、ヨースケ。

中野 陽介

僕は大学に入ってから『アルパ』という

あだ名で呼ばれるようになった。この求人  
情報誌のような高山動物のようなあだ名  
は、入学直  
か

だいたありがたい名前なのだ。

だが、このあだ名にはいくつか難点があ  
る。一つは、初対面の人に名乗ると必ず由  
来を聞かれるのでその都度説明するのが面  
倒な点である。次に、由来を説明したとこ  
ろでいつも「へえ〜」程度の返しで  
てしまうので正直しんどい。そして最大の  
難点は、そんなにインパクトがあるわけ  
もないので覚えてもらいにくいという点  
だ。

読者の方にはどうでもいいだろうが、こ  
の際名前の由来  
て

隠そうこのあだ名の由来はあの有名な『ア  
ルパーク』だ。と言っても、アルパークを  
ご存じない方も多いだろうと思うので説明  
しておく。

アルパークとは、JR西条駅から岩国・  
下関方面の電車に乗り、広島から三つ隣の  
新井口という駅で降りると見えてくる大型  
ショッピングモールだ。駅から動く歩道で

い。しかも、たくさんお店も入っているた  
め何でも揃う。そこで一日中過す事だつて  
可能だ。広島県に住んでいる人であれば、  
一度はアルパークに行ってみて欲しい。

ただ、「実家

と口にしてしまったばかりに、大学での  
僕のあだ名はア  
ったのだ

も、このアルのの、三年生くらいの時に社会科学見学でアルパークに行った時に担当の方に質問したところ「特にない」と言われた思い出があったような気がする

ここまで読んでいただくと、こ  
ルパという名前に満足してないように思われるだろうが、実は二年半も呼ばれ続けると愛着が湧いてくる。アルパークのCMなんかを見た時には親近感も湧いてくる。呼ばれるたびに地元に戻った気分になる。このあだ名によって僕は自分の地元愛に気づくことができたのかもしれない。

来年アルパークが更にでっかくなつてオープンするらしい。それに  
もでっかくなる計画が打ちあがっているのだが、オープンはいつになるのやら……。

## 総科で

五十嵐 太郎

やるが、一人で出来ないことには手を出さない、というところがある。

だから、展開研究などは楽しかった。いつ何をどのようどの程度やるか、あるいはやらないか、全て一人で決められた。決められないのは、実質的には、論文提出とポスター発表の期日だけである。そこで、時間があれば中央図書館の地下書庫に潜

と思うことを、自分の都合に合わせて、やった。

実に気楽だ。何が気楽とって、うまくいかなくても不利益を被るのは自分一人、これほどやりやすいことはない。要は、翌年再履修すれば良いのである。自分の責任が自分に帰ってくるという、簡単な話だ。逆に、自分の責任が他人に帰って

くないと、常々思っている。

だから、『飛  
つかった。それこそ就任当初は、胃が痛く  
んなに  
う

だ  
し

いのか、自分なりのやり方が見えてきた。

決断はわたしがする。しかしその前に、出る限りみ

つものを作るとはどういうことか、考えた末に見えてきたやり方だった。

決断はわたしがする。誰にどういった権限を持たせるか、問題が生じた際どう対処するか、締め切りはどうするか。そしてわたしが

もらう。それぞれがなんとなくやっていたので

た行動を取るためには、リーダーの決定と指示が必要である。これをしないならば、すなわち責任の放棄である。そしてこれを

する以上、『飛翔』が発行できなければそれはわたしの責任である（なんてことは、引退した今だから言えるんですけどね）。

しかし決断の前に、出来る限りみんなと話し合う。特に一年の時から一緒にやっている五人の同級生には、ことあるごとに意見を求めた。相談の末、わたのののえと反対の結論が出ることも度々だった。そもそも、わたしに特別なノウハウがあるわけではない。ただ、決断するという役割を引き受け

当初胃が痛くなったのは、一人でやることとみんな  
と  
かたためであるように思う。全てを一人でやるわけにはいか  
でやるべき部分もある。それを見極めるのに、時間を要した。自分と他者との関わりを捉えられていなかった。

だって、他者と関わっている。第一、論文を書いた人がいる。そのバックには、途方もない先行研究の蓄積がある。それに、論する人や並べる人もいる。それで、やっと読める。

一人でやっているつもりでも、必ず他者との関わりがある。みんなで作ることの中にも、一人でなすべきことがある。展開研究と『飛翔』に取り組む中で、そんなことが見えてきた。この学部に来て良かった  
思う。